

製造業

十勝といえば農業・酪農業といった第一次産業のイメージがあるが、第二次産業の製造業の分野でも農業や酪農業の生産物を生かした食料品製造業が主力である。十勝管内の製造品出荷額について、ここ15年間の推移でみると、菓子や乳製品の製造工場新增設などで、食料品製造業の出荷額は増加を続け、他の製造業出荷額の減少傾向を一手に補っている状況にある(表1)。今後も大手メーカーのチーズ工場が新設されるなどさらに出荷額増の要素がある。従業者数も増加しており、地域雇用の下支えの役割も果たしている。結果、管内の食料品製造業の出荷額ウエートは、1989年の56.6%から2004年には68.6%と12ポイントも上昇している。

これほど食料品製造業の一極集中が著しい地区は珍しく、全国236地区ある工業地区の中で帯広地区は水産食料品製造業で有名な宮城県気仙沼地区の81.0%に続いて全国第2位を誇っている(表2)。また従業者1人当たり食料品製造品出荷額も約4,000万円と全国第3位の高い生産性となっている(表3)。

この結果は、第一次産業の農業からの地産品と、第二次産業、食料品製造業の食料加工品との強固な組み合わせが、十勝で既に十分な成果を上げていることを示している。このことは、十勝産の食品が地域ブランドの成功事例として全国区の知名度を得ていることでも証明されている。十勝ワイン、十勝ブランドのチーズ、六花亭をはじめとする菓子などは、日本の家庭に浸透した「十勝の戦略商品」となっている。

もとより十勝の製造業は食料品製造業だけではない。帯広松下電工などにみられるように地元の熱意が食品分野以外の製造業の立地を促す可能性があるが、農産物や食品分野での成功をさらに推し進めるとすれば、どのような分野が考えられるだろうか？

例えば、健康をキーワードに考えてみると、より高度な食品ブランド力を得るために機能性食品の開発・生産に取り組んだり、食品に彩りを添える調味料の分野に広がっていくことは考えられないか。また医食同源の言葉が示唆するように、食品から医薬品、さらにバイオ産業全般へと発展が進めばおもしろい。食品・健康分野だけではない。環境分野でも、十勝のポテンシャルが生かされるだろう。農産物由来成分によってバイオマス燃料などの新たなエネルギー分野を切り開く試みが既に進められている。

農産物から食品加工業に広がっていった十勝ブランドは、消費者に対し十勝の豊かな大地のイメージを与え続けることに成功している。今後も、生産性の高さや健康・環境などのキーワードを手掛かりに、日本のみならずアジアへもマーケット拡大を図っていけば、十勝の製造業基盤は一層強化されていくだろう。

<表1> 十勝支庁の食料品製造業出荷額・構成比・従業者数

	平成元年			平成16年		
	出荷額 (億円)	構成比	従業者数 (人)	出荷額 (億円)	構成比	従業者数 (人)
合計	3,591	100.0%	14,620	3,757	100.0%	12,689
食料品製造業	2,032	56.6%	5,549	2,576	68.6%	6,881
その他	1,559	43.4%	9,071	1,181	31.4%	5,808

(資料)北海道企画振興部計画室統計課「工業統計調査」

<表2> 食料品製造業の製造品出荷額ウエイト上位5地区(全国236地区中)

	出荷額 (億円)	ウエイト
気仙沼地区(宮城県)	1,011	81.0%
帯広地区(北海道)	2,403	68.8%
唐津地区(佐賀県)	575	58.3%
青森地区(青森県)	496	54.2%
田辺周辺地区(和歌山県)	619	53.6%

(資料)経済産業省経済産業政策局調査統計部
「平成16年工業統計表『工業地区編』」データ

<表3> 食料品製造業の従業者1人あたりの製造品出荷額上位5地区(全国236地区中)

	出荷額 (億円)	従業者一 人あたり の出荷額 (千円)
鹿島地区(茨城県)	2,366	50,905
岐南地区(岐阜県)	140	41,533
帯広地区(北海道)	2,403	39,872
水海道地区(茨城県)	1,656	37,904
津山地区(岡山県)	479	33,536

(資料)経済産業省経済産業政策局調査統計部
「平成16年工業統計表『工業地区編』」データ